

1. 現在の発掘調査状況（A区）

A区上層（江戸時代：約 400 年前）の調査は9月末に終了しました（第1・2図）。

現在は下層（縄文時代後期：約 4,000 年前）の調査に向けて、縄文時代後期までの土層の確認や当時の生活面まで重機を使って掘り下げる作業をおこなっています。あわせて、今月はB区の調査も予定しています。



第1図 発掘調査のようす

2. 遺跡発掘調査の活用

9月21日（木曜日）に、市生涯学習課主催「まちづくり塾 阿賀野市の遺跡を身近に感じてみよう！」が開催されました。当日は9名の市民の皆さん参加され、土橋北遺跡と村北遺跡を見学しました。

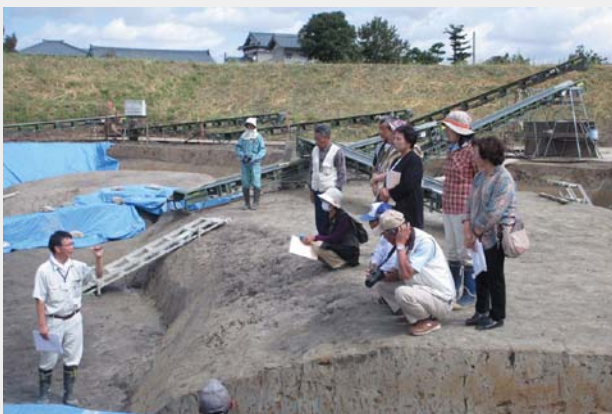
土橋北遺跡ではA区の調査の様子を見ていただきました。安野川仮堤防の上から遺跡を見て、江戸時代の道路（三国街道）がどこを通っていたのか、昔の百津村がどのようにあったのか、調査員の説明に耳を傾けていました。また、今は見えない、地面の下にかくれていた昔の川跡の存在にもびっくりしたようです。

このほかに、これまでの調査で出土した出土品の解説を行いました。縄文時代～江戸時代のホンモノを見て、少々興奮気味に「いつの時代の古銭？」、「どうやって模様をつけたのか」など様々な質問がありました。

土橋北遺跡では、10月21日（土曜日）に、（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団が遺跡現地説明会を開催します。これに合わせて市の調査でも出土品展示会を行う予定です。詳しい内容・日程は別にご案内しますので、ぜひお出かけください。また、市の調査ではいつでも調査現場のご案内をしますので、近くを通られた際には、お気軽におこしください。



第2図 上層完掘（東から）



第3図 遺跡見学のようす



第4図 出土遺物見学のようす

3. 川跡の調査（その後）

先月号でお伝えした川跡について、調査をすすめるなかでいろいろなことがわかってきました。第5図に示したように、川跡が縄文時代後・晩期の層（V・VII層）を切っています。つまり、この川は縄文時代以降に流れていたこととなります。では、いつ流れていたのでしょうか。

そのヒントとなることがわかりました。①層に堆積している土の特徴は、川の西側から合流する平安時代（約1,200年前）の溝に堆積する土と似ています（第6図）。平安時代には、川に排水するための溝が作られたようです。つぎに、②層に堆積する土の中から、鎌倉～室町時代（約600～800年前）と思われる古銭が出土しました（第7図）。この古銭は東になっていて、紐を通していたと考えられます。また、周囲には炭が広がり、焼かれた状態で出土しています。なぜお金が焼かれたのかはわかりませんが、何らかの儀礼行為の可能性もあります。

川のいちばん上には江戸時代に盛られた土が堆積していて、川は埋め立てられました。これらのことから、川は平安時代～鎌倉・室町時代に流れていた可能性が高くなりました。

川ができる以前、縄文時代の頃の様子はどうだったのでしょうか。

縄文時代晩期の層（V層）ではほとんど遺物は出土しないことから、この時期は土地利用に適さない環境であったと思われます。いっぽう、縄文時代後期の層（VII層）ではたくさんの土器が出土しています。

土器は後期中葉（約3,500年前）の加曾利B式土器が主体です（第8図）。石器はこれまでの調査と同様に、石鏃などの狩猟具が極端に少なく、敲石（たたきいし）などの調理・加工具の割合が高いことが特徴です。



第5図 川跡の土層断面（北東から）

4. まとめ

これまでの調査で、川が縄文時代以降に流れていた可能性が高いことがわかりました。また、平安時代～鎌倉・室町時代の人びとが、川と積極的に関わりながら暮らしていた様子が見えてきました。

これから縄文時代へと調査が移ります。どのような環境であったのか、川ができる要因は何だったのかを明らかにしていきたいと考えています。



第6図 川跡と古代の溝（北東から）



第7図 古銭出土状況（西から）



第8図 加曾利B式土器